

「救える命があればどこへでも」。岡山を拠点に、世界各国の被災・紛争地で緊急救援活動などを展開する国際医療ボランティア「AMDA」（本部・岡山市北区伊福町）が今年、設立30周年を迎えた。

着実に実績を積み、共に行動する海外の医師らのネットワークが拡大。現在、海外支部はインドネシア、バングラデシュ、インド、トルコなどアジアを中心に30カ国・地域に上る。

活動内容も、緊急時の医療支援だけでなく、中長期の教育、医療、保健福祉、和平プロジェクトなど多岐にわたってきた。これまでに手掛けたプログラムはフィリピン、スリランカ、

AMDA設立30周年

広がる「岡山発」国際貢献

ネパール、ハイチなど約65カ国で160件以上。年間約1億2千万円という活動資金のほとんどを寄付で賄っているのも特徴で、まさに「岡山発」の国際貢献活動と言える。

「公的資金に頼らず、多くの人々の『善意』に支えられてきた。これからも信頼に応えたい」と、創設者でAMD Aグループ代表の菅波茂さん(67)。AMDAでの経験がきっかけとなり、新たなNGO（非政府組織）を設立して海外で医療活動を続けたり、国連機関で活躍する「卒業生」たちも生まれている。地方から世界へ羽ばたくAMDAの今を追った。（伊丹友香）